

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	3972500460
法人名	社会福祉法人 清流会
事業所名	グループホーム「やすらぎの里」
訪問調査日	平成 19年 11月 22日
評価確定日	平成 20年 3月 4日
評価機関名	社会福祉法人 高知県社会福祉協議会

○項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年12月2日

【評価実施概要】

事業所番号	3972500460		
法人名	社会福祉法人 清流会		
事業所名	グループホーム「やすらぎの里」		
所在地 (電話番号)	高知県高岡郡四万十町仁井田114の1 (電話) 0880-22-9508		
評価機関名	社会福祉法人 高知県社会福祉協議会		
所在地	高知市朝倉戊375-1高知県立ふくし交流プラザ内		
訪問調査日	平成19年11月22日	評価確定日	平成20年3月4日

【情報提供票より】(19年11月8日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成13年10月1日、平成18年5月2日(増築)		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18人
職員数	15人	常勤	11人、非常勤 4人、常勤換算13人

(2) 建物概要

建物形態	■併設/単独	■新築/改築
建物構造	鉄筋コンクリート、木造 造り	
	4 階建ての	階 ~ 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	19,500 円	その他の経費(月額)	21,000 円	
敷金	有(円)	無■		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	350 円
	夕食	450 円	おやつ	3,000 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(月 日現在)

利用者人数	18名	男性	6名	女性	12名	
要介護1	5名	要介護2	9名			
要介護3	3名	要介護4	名			
要介護5	1名	要支援2	名			
年齢	平均	86.6歳	最低	76歳	最高	99歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	くぼかわ病院	どい歯科クリニック
---------	--------	-----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は、ケアハウスと併設でH13年10月に開所し、H18年5月には2ユニットに増築している。静かな環境の中、近隣住民も少なく、人との出会いの場は少ないが、併設のケアハウスとの交流で、合同で催しものを開催したりしている。そのことが、利用者の行動範囲の拡がりと共に、楽しみ、喜びに繋がっている。ケアハウスの入居者、職員とも自然な形で交流を持ち、単独の事業所では味わえない雰囲気になっている。職員は穏やかで、ゆったりしており利用者もやすらぎのある暮らしを送っている。今後は、町内会へ加入し、より地域に密着した事業所として発展することを期待する。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回評価での改善課題については、管理者を中心に話し合いは行っている。今後は、改善項目について、全職員の話し合いを中心に、検討・チェックを行い、指摘項目については、優先順位を立て改善シートを作成し、逐次、速やかに改善することを望む。
	②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 職員は、評価の意義を十分理解しており、前回の改善課題も考慮しながらケアの統一化やサービスの質の向上に向け全員で取り組んでいる。
重点項目	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 会議においては、参加メンバーである民生委員から、町内会への加入についての話しができたり、支援センター職員からは、今秋から、町内にグループホーム連絡協議会が発足したことの報告があった。事業所側からは、行事等を含めた近況報告などしている。ゆっくりではあるが、双方向的な会議に進展している。
重点項目	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族が訪問し易い雰囲気や、話し合える関係はできている。苦情にまでは至らないが口頭での相談は過去にあった。そういった意見・相談などは、サービスの質の向上のための大切な宝と捉え、些細な意見なども記録に残し、職員間で共有しサービスに反映するよう望む。また家族が遠隔地の方が多いため、病院への受診などは殆ど職員が同伴している。町内に家族がいる方には、利用者と家族が疎遠にならないように、可能な範囲で家族にも協力を依頼することを検討されたい。
重点項目	④	町内会へは加入していない。地域社会の一員として、「支え合う」関係づくりは重要である。近隣の方達とは、日常的に挨拶を交わすなどの関係づくりや、いざという時に役立つ馴染づくりの関係を築いておくことも大切である。地域の活動に参加し、そこでの交流を通じて、事業所と地域の方が支え合う双方向の関係をつくることの大切さからも町内会への加入を望む。

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

外部	自己	項目	取り組みの事実 (<input checked="" type="checkbox"/> 実施している内容・ <input type="checkbox"/> 実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	<input checked="" type="checkbox"/> 事業所独自の理念がある。 〔 〕 <input checked="" type="checkbox"/> これまでの理念に加え、地域密着型サービスとしての役割を目指した内容である。 〔理念の中に「いつまでも地域の一員として明るい笑顔を絶やさぬよう」という文言があり、その人らしく地域で暮らし続けることを目指した内容である。〕		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> 理念について職員間で話し合いの機会をもち、意識づけがされている。 〔ホーム内の目に触れやすい場所に掲示し、月1回の職員会では、理念についての理解を深め実践と共有に努めている。〕 <input checked="" type="checkbox"/> 日々のサービスの提供場面（言葉かけ、態度、記録等）において、理念が反映されている。 〔ミーティングでは、理念とのずれがないか、具体的なケアについて話し合っている。特に、新採用の職員に対しては、理念について繰り返し話し合いの場を持っている。〕		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	<input type="checkbox"/> 地域住民の一員として、町会、自治会等に参加している。 〔 〕 <input type="checkbox"/> リサイクル活動や行事など地域活動の情報を集め、それらに参加するなど、接点を持つ努力をしている。 〔 〕	<input type="checkbox"/>	地域の一員として「支え合う」関係づくりは重要である。地域の活動に参加することで地域との交流を深め、地域に根ざした事業所としての基盤づくりにも役立つことになる。その意味からも町内会へ加入することを望む。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> サービス評価を実施するにあたり、評価の意義とねらいについて運営者、管理者、職員で話し合い、全員で自己評価に取り組んでいる。 〔職員は、評価についての意義を理解している。全員で自己評価に取り組み、気づきなど積極的な意見も出ている。〕 <input type="checkbox"/> 評価で見出された課題について改善計画を立て、その実施に取り組んでいる。 〔 〕	<input type="checkbox"/>	前回の評価で見出された課題に対しては、優先順位をつけて、改善シートを作成し、実践への可及的速やかに取り組むことを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (<input checked="" type="checkbox"/> 実施している内容・ <input type="checkbox"/> 実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	<input checked="" type="checkbox"/> 利用者にとって馴染みの職員が継続的に支える体制となっている。 〔 〕 <input checked="" type="checkbox"/> 職員が代わる時は、引き継ぎの期間を十分に取、スムーズに移行できるように配慮している。 〔職員の異動は、殆どがケアハウスの職員との間で行われている。同じ建物内で行事などを通して、日頃から顔馴染みの職員が多い。利用者へのダメージには十分配慮している。〕		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<input checked="" type="checkbox"/> 日常的に学ぶことを推進し、パート職員にもチームの一員として、研修・会議等参加の機会がある。 〔全職員がケアの向上を目指して研修や会議に参加できる態勢がある。〕 <input checked="" type="checkbox"/> 全職員が共有できるよう、研修内容を報告する機会を作っている。 〔研修などに参加した職員は、研修報告書を提出し、受講内容を報告している。併設のケアハウス、ヘルパーステーションの職員と合同で報告をする仕組みになっている。〕		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	<input checked="" type="checkbox"/> 県内、全国組織の同業者ネットワークに加入し、サービスや職員の質向上につなげている。 〔 〕 <input checked="" type="checkbox"/> 管理者・職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、職員のサービスや質向上に努めている。 〔本年度から町内のグループホーム連絡協議会が発足した。同業者との交流の機会を持つことにより、情報を得ながらサービスの質の向上に取り組んで行く姿勢が窺われる。〕		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	<input type="checkbox"/> 入居希望者の入居に際し、その者の心身の状況、生活歴、病歴等の把握に努めている。 〔利用者によっては、生活背景など情報が少ない方がいる。〕 <input checked="" type="checkbox"/> 本人や家族に事業所の見学や体験をしてもらっている。 〔 〕 <input type="checkbox"/> 入居希望者には、管理者と職員が面接を行っている。 〔 〕	○	利用者の生活歴をより深く理解することは、ケアをする上で重要な事項である。入居時などに家族から聴取できなかった場合は、機会を見ながら情報収集し、全職員の共有のもと利用者の視点に立って柔軟に支援していく取り組みを期待する。また入居希望者には、管理者、職員が様々な視点から多角的に面接を行い、多様な情報を収集することが入居後の利用者への関わりにおいて重要なことなので、検討を望む。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (<input checked="" type="checkbox"/> 実施している内容・ <input type="checkbox"/> 実施していない内容)	(○ 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	<input checked="" type="checkbox"/> 日々の生活場面の中で、利用者を支援されるのみの立場にはおいていない。 〔一緒に過ごす中で、共に「支えあう」関係づくりに留意している。〕 <input checked="" type="checkbox"/> 支援する側、される側という意識は持たず、お互いが協働しながら和やかな生活ができるような場面作りがある。 〔「できること」はしてもらい、「できそうな」と思う場面では手を差し伸べるという気持ちで接している。〕 <input checked="" type="checkbox"/> 利用者から生活の技や生活文化の大事さを教えてもらう場面がある。 〔職員は、日頃から人生の先輩という気持ちで接している。利用者から、戦争に行った体験談の話を聞いたり、元看護師の方からは、血圧の計り方、食生活の大切さについて、また英語を教えてくれる利用者もあり、長年培ってきた知識、技などを随所で教わっている。〕		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	<input type="checkbox"/> 一人ひとりの思い・暮らし方の希望・意向の把握に努めている。 〔 〕 <input type="checkbox"/> 意思疎通が困難な方には、ご家族や関係者から情報を得るようにしている。 〔 〕	○	その人らしく暮らしていく為には、一人ひとりの思いや希望、意向などの把握が不可欠である。そのためには、家族からの情報を含め、利用者の思いや暮らし方の希望、意向などの把握に努め、利用者の視点に立った支援が望まれる。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	<input type="checkbox"/> 本人やご家族等からの気づき、意見、要望等を反映した介護計画が作成されている。 〔介護計画については「お任せします」と言う家族が多い。介護計画への家族の意向が記載されてない介護計画もある。〕 <input checked="" type="checkbox"/> アセスメントを含め職員全員で意見交換やモニタリング、カンファレンスを行っている。 〔長期目標、短期目標により、モニタリング、カンファレンスは行っているが、課題を見出すアセスメントにバラつきがある。〕	○	介護計画の大切さを家族に説明し、家族からの情報、希望、意向を引き出した介護計画を作成することを期待する。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	<input checked="" type="checkbox"/> 介護計画は、設定された期間ごとに見直しされている。 〔定期的、3か月に1回見直している。〕 <input checked="" type="checkbox"/> 本人、家族の要望や状態に変化が生じた場合には、その都度見直しされている。 〔 〕 <input type="checkbox"/> ワンパターンの期間設定ではなく、本人の状態や計画内容に応じた個別の期間設定をしている。 〔 〕	○	小規模できめ細かいケアが特徴の地域密着型サービスでは、介護計画策定時に柔軟かつ臨機応変な対応ができる計画を作ることが望まれる。介護度の高い方などが入居された場合などは、暫定プランなどで状態を見ながら、流動的に対応していくことを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (<input checked="" type="checkbox"/> 実施している内容・ <input type="checkbox"/> 実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	<input checked="" type="checkbox"/> 医療処置を受けながら生活が継続ができるように努めている。 [医療機関の協力を得ながら、利用者、家族が安心して生活ができるように支援している。受診時は、家族の同伴が難しい方が多く、職員が同行することが多い。] <input checked="" type="checkbox"/> 重度化した場合や終末期も事業所でケアを提供している。 [終末期のケアについては、家族と話し合っている。病状が重度化した利用者に対して、医師の往診のもと、家族が宿泊して看病したこともあり、可能な範囲でケアを提供している。] <input checked="" type="checkbox"/> 特別な外出、通院や送迎、外泊などの支援を行っている。 [不定期ではあるが外出の多い方、それぞれの季節に外泊をする方等の希望を踏まえて柔軟に支援している。]		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	<input checked="" type="checkbox"/> いままでのかかりつけ医や本人・家族等が希望する医療機関・医師に受診できる支援ができています。 [家族の希望、病状などを踏まえて柔軟に対応している。] <input checked="" type="checkbox"/> 受診や通院は、本人やご家族の希望に応じて対応している。 [本人、家族の希望に応じた対応をしているが、大方の家族は、事業所へ依頼している。] <input checked="" type="checkbox"/> 受診結果に関する情報の共有ができています。 [受診結果については、服薬変更なども含めて、職員間はもちろんのこと、家族にも連絡をしており、共有できています。]		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	<input type="checkbox"/> 終末期の対応方針を定め、家族・医師・看護師を交えて話し合いを行っている。 [まだ具体的な方針について、関係者間の共有はできていない。] <input checked="" type="checkbox"/> 本人や家族の意向を踏まえ、医師、職員が連携をとり、安心して納得した最期が迎えられるように取り組んでいる。 [現在は、本人、家族の意向を尊重しながら、事業所内で対応できる範囲で支援をしている。]	<input type="radio"/>	状態の変化に即して本人、家族や医師その他関係者が十分に意志疎通を図り、安心して、納得した終末を迎えることができるよう、今後も継続した努力を期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (<input checked="" type="checkbox"/> 実施している内容・ <input type="checkbox"/> 実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	<input checked="" type="checkbox"/> 人前であからさまに介護したり、誘導の声かけをして、本人を傷つけてしまわないように、目立たずさりげない言葉かけや対応に配慮している。 〔 〕 <input checked="" type="checkbox"/> 他の家族や外来者に対して、職員が利用者のプライバシーに関する話を話さないことを徹底している。 〔 〕 <input checked="" type="checkbox"/> 全ての職員が、個人情報保護法の理解に努め、徹底されている。 〔 〕		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	<input checked="" type="checkbox"/> 一人ひとりの「その日」にしたいこと(買い物や散歩等)を把握し、それに応じて柔軟に支援している。 〔一人ひとりのその日の体調に合わせて、個性のある支援を心掛けているが、利用者からの要求は少ない。月に1回は遠出をして、ドライブを楽しんだり、外食を楽しむなどしている。〕 <input checked="" type="checkbox"/> 事業所の業務スケジュールに利用者の生活を合わせていない。 〔併設のケアハウスで行っているいきいき体操、折り紙サークル、コーラスサークル等に参加するなど、利用者の希望に沿った支援をしている。〕		
(2)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	<input checked="" type="checkbox"/> 献立づくりから調理、片付けに至るまで、食事に関する一連の流れを職員が一方的に進めるのではなく、利用者の意志や気持ちを大切にしている。 〔準備、盛り付け、食器洗い、片づけなど、できる人ができる事をしている。無理強いはせず気持ちを大切にしている。〕 <input checked="" type="checkbox"/> 職員は食事の介助にとどまらず、利用者と職員が同じものを一緒に食べている。 〔職員は、同じテーブルで利用者と同じ物を食べ、食事を楽しむ雰囲気づくりを大切にしていた。〕		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	<input checked="" type="checkbox"/> 利用者のこれまでの生活習慣や希望にあわせて入浴できるよう、職員勤務体制等について工夫をしている。 〔いつでも入浴できる体制であるが、殆どの利用者は日中入浴している〕 <input checked="" type="checkbox"/> 入浴を拒む人に対しては、言葉かけや対応の工夫、チームプレー等によって一人ひとりに合わせた入浴支援を行っている。 〔入浴拒否の利用者に対しては、なぜ拒むのか情報を共有しながら、声かけの統一を図るなどしながら支援をしている。〕		入浴介助の際、介護用のロングエプロンを使用している。感染性の皮膚疾患など特別な場合は例外としても、この着用は、利用者の不安、不快感を増幅させることになる。従って、「利用者を脅かさない入浴支援」という原点に立ち返って、再検討を期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (<input checked="" type="checkbox"/> 実施している内容・ <input type="checkbox"/> 実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	<input type="checkbox"/> 事業所だけの訓練ではなく、地域住民の参加、協力を得ながら避難訓練等を定期的に実施している。 〔事業所内での訓練は、年2回行っており、消防計画書も作成しているが、地域住民の協力は得られていない。〕 <input checked="" type="checkbox"/> 避難路の確保(整理整頓)や消火器等の設備点検を定期的に行うとともに、非常用食料・備品を準備している。 〔避難路の確保、消火器などの定期点検は問題はなく行われている。非常用食料に関しては、食材料を契約している業者が、災害時救援として、ヘリコプターで物資を運んでくれる。〕	○	職員だけの誘導には限界があるので、地域住民、警察署、消防署などとの連携を図りながら、事業所の災害時対策に関する理解を求め、協力体制を築くことを期待する。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	<input checked="" type="checkbox"/> 一人ひとりの一日の栄養摂取総量や水分量を把握している。 〔 〕 <input checked="" type="checkbox"/> 一人ひとりの嗜好を把握し、献立に採り入れながら、栄養バランスにも配慮している。 〔決められた献立ではあるが、四季のもの、行事の時などは希望を取り入れながら栄養バランスに配慮している。〕 <input checked="" type="checkbox"/> 定期的に、栄養士や保健師等に専門的な観点からチェックしてもらっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<input checked="" type="checkbox"/> 利用者にとって使いやすい配置や馴染みの物を採り入れた共用空間になっている。 〔共用空間には、広いスペースの壁に、利用者が書いた書道、押し花、ぬりえ等の作品を掲示している。家具類も馴染みの物を配置して、居心地よく過ごせるよう工夫している。〕 <input checked="" type="checkbox"/> 天井や壁面に掛けられた折り紙等の飾り付けが、家庭的な雰囲気壊していない。 〔壁面に飾られた利用者の作品から家庭的な温かい雰囲気がでている。〕 <input type="checkbox"/> 季節感のある装飾等に工夫するなど、季節感や五感の刺激にも配慮している。 〔 〕	○	共用空間には、時期の過ぎた装飾品が見られる。四季の移り変わり毎に取り替えるなどの配慮を望む。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<input checked="" type="checkbox"/> 使い慣れた馴染みの物を傍に置くなど、本人や家族と相談しながら個別に工夫されている。 〔使い慣れた家具、衣装ケース、仏壇、テレビなど、利用者にとって必要で馴染みの物が置いてある。家族の写真、自分の作品を飾るなど温かみもある。〕 <input checked="" type="checkbox"/> 家族の協力が得られない等の場合でも、本人の意向を確認しながら、その人らしく居心地のよい居室づくりに取り組まれている。 〔職員は、本人の意向を確認しながら話し合い、温かみのある部屋になるように努力をしている。〕		